

東北・北海道支部 仙台で設立総会

日本保全学会

原子力発電所の運転管理や維持補修など「保全活動」の研究者や電力会社の技術者でつくる日本保全学会（会長・宮健三東大名誉教授）の東北・北海道支部の設立総会が十日、仙台市青葉区の東北大流体科学研究所であった。会員約五十人が出席。支部長に庄子哲雄東北大教授を選出した。

同学会初の地方支部は会員約百二十人で発足。庄子支部長は「原発の安全性の確立には、学術的な基盤が重要になる。原発が多く立地する東北、北海道で地域に密着した活動をしたい」とあいさつした。

学会は、新潟県を含む

東北・北海道地区に立地する原発を対象に、施設管理などの研究を進める。立地地域の住民を対象にした保全活動に関する講演会なども開催する。